

八味地黄丸の使用経験

北海道大学医学部泌尿器科学教室（主任：辻 一郎教授）

徳 中 莊 平

富 樫 正 樹

寺 島 光 行

辻 一 郎

斗南病院泌尿器科（部長：大越隆一）

大 越 隆 一

市立札幌病院泌尿器科（部長：斯波光生）

斯 波 光 生

CLINICAL STUDIES OF TSUMURA-HACHIMIJIogan

Sohei TOKUNAKA, Masaki TOGASHI, Mitsuyuki

TERASHIMA and Ichiro TSUJI

*From the Department of Urology, School of Medicine, Hokkaido University**(Director: Prof. I. Tsuji)*

Ryuichi OHKOSHI

*From the Department of Urology, Tonan Hospital**(Chief: R. Ohkoshi)*

Teruo SHIBA

*From the Department of Urology, Sapporo Municipal Hospital**(Chief: T. Shiba)*

Tsumura-Hachimijiogan was tested on 91 cases of benign prostatic hypertrophy, vesical neck contracture etc. The improvement of clinical symptom was observed in 61.8% of benign prostatic hypertrophy and in 56% of vesical neck contracture. But no effect was obtained in cases with factor of neurogenic bladder. No side effect was observed except for one case of slight diarrhea.

緒 言

八味地黄丸は漢方医学では古来、腎の気（老人の排尿障害、インポテンツ）に効果があるとされている薬の1つである¹⁾。われわれは今回、壮老年男子の排尿障害に本剤を使用する機会を得たのでその経験を報告する。

使 用 薬 剤

ツムラ八味地黄丸エキス顆粒（調剤用）5g は、ジオウ、6.0g、タクシャ 3.0g、ブクリョウ 3.0g、ボタンピ 2.5g、ケイヒ 1.0g、サンヤク 3.0g、サンシュ

ユ 3.0g、加工ブシ末 0.5g の割合の混合生薬のエキス粉末 2.0g に賦形剤を加えて 5g としてあるものである。

対 象 疾 患

54～85歳の男性91例で何らかの排尿困難を訴えるものに投与した。その内訳は前立腺肥大症55例、前立腺肥大症に神経因性膀胱を伴うもの8例、膀胱頸部硬化症25例、前立腺炎2例、前立腺癌1例である。なお前立腺癌症例は除腺術と女性ホルモン療法を行なっているものに八味丸を併用した例である。

効 果 判 定

治療効果は八味地黄丸を2～4週服用後に、排尿困難、残尿感、尿線中絶、頻尿などの自覚症状が著しく改善したものを著効、軽快したものを有効、全く変わらないものを無効と判定した。客観的所見としては残尿測定を用いた。

成 績

前立腺肥大症例では著効9、有効25、無効21であり、前立腺肥大症に神経因性膀胱を伴うもの8例ではすべて無効であった。膀胱頸部硬化症25例では著効3、有効11、無効11となり、前立腺炎2例ではともに著効を示した。抗男性ホルモン療法中の前立腺癌では有効であった (Table 1)。なお副作用は1例に軽い下痢を認めたのみであった。

Table 1

		著 効	有 効	無 効
前立腺肥大症 (肥大の程度)	55例	9 (大3, 中3, 小3)	25 (大6, 中15, 小4)	21 (大3, 中12, 小6)
前立腺肥大症 + 神経因性膀胱	8例	0	0	8
膀胱頸部硬化症	25例	3	11	11
前立腺炎	2例	2	0	0
前立腺癌 (抗男性 ホルモン療法 中)	1例	0	1	0

考 察

われわれは漢方医学には全くの門外漢であり、漢方で重視する病期あるいは体質など¹⁾については特に留意しないで八味丸を投与したが、前立腺肥大症では55例中34例 (61.8%) に効果がみられ、投与前の肥大の程度と効果の有無には特に関連を認めていない。膀胱

頸部硬化症でも25例中14例 (56%) に効果がみられ、この両者を合すると80例中48例 (60%) に自覚症状の改善がみられた。ただし、自覚症状は改善するが残尿測定では大部分のもので投与前とほとんど変化がみられず、また投与後肥大腺腫の明らかな縮少をきたしたのものもない。

なお前立腺炎2例ではともに著効であり、今後、八味丸をもっと使用してみたいと思っている。

一方、神経因性膀胱を合併するものには全く効果がみられなかった。

以上、ツムラ八味丸は前立腺肥大症および膀胱頸部硬化症例の60%に自覚症状の改善がみられた。ただし残尿には影響を与えないので残尿の多いものではそれを減らす他の方法が必要となる。また神経因性膀胱を合併するものには全く効果がなかった。

われわれの印象ではツムラ八味地黄丸は従来同様の対象疾患に用いられてきたエビプロスタット、パラプロスト、セルニルトンなどとほぼ同等あるいは症例によってはそれ以上の効果が認められ、副作用もきわめて少ないので、今後、泌尿器科領域でももっと用いられてよい薬であると思われる。

結 語

ツムラ八味地黄丸を前立腺肥大症、膀胱頸部硬化症に投与し、前立腺肥大症で61.8%、膀胱頸部硬化症で56%に効果を認めた。また前立腺炎にも有効であるように思われた。ただし神経因性膀胱を伴うものでは効果がみられなかった。副作用は1例に軽い下痢を認めたのみであった。

参 考 文 献

- 1) 藤平 健：漢方医学講座，2：28～32，津村順天堂，1977。

(1979年5月14日受付)